

1

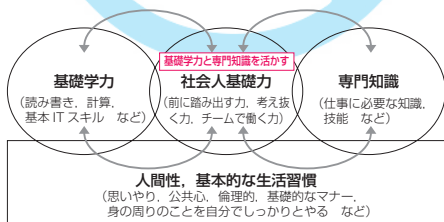
「社会人基礎力」とは

■ 基礎学力と専門知識を活かす／チームの一員となるための力

「社会人基礎力」*1とはひと言でいうと**基礎学力**と**専門知識**を活かす力のことです（下図参照）。**さまざまな人とかがわって、チームの一員として仕事をしていく**ためには、皆さんが身につけた基礎学力や専門知識が社会や職場のなかでよりよく発揮されることが必要です。それに役立つことの1つが「社会人基礎力」の**3つの能力**とそれらを構成する**12の能力要素**を知り、日頃から**“意識する”**ことです。

■ さまざまな人との交わりのなかで育つ

社会人基礎力は**“人との交わりのなかで育まれる”**という性質をもっています。看護職は、考え方や立場、年代などが違うさまざまな人とかがわかります。患者さん（利用者さん）やご家族、地域の方、職場の同僚・先輩・上司、多くの職種と接して仕事をします。社会人基礎力を継続して意識し育み続けること自体が仕事をするための土台づくりとなり、自分自身の成長へとつながります。若い人はもちろん、キャリアを重ねた人にもそれぞれの段階に応じて年齢を問わず求められるものです。仕事をするなかで遭遇する困難や、時にはつまずきなども乗り越えて仕事を続けていくための力としても身につけたいものです。



(経済産業省資料をもとに作成、一部改変)

図 基礎学力と専門知識を活かす社会人基礎力

*1 位置づけ・定義は前頁扉の注を参照してください。

■ 特徴

「物事に進んで取り組む力」です。指示待ちではなく*¹自らやるべきことを見つけた力で、たとえば「明日はこれをする」「今まで苦手だったけれど、今日は先輩に質問しよう」などと決め、積極的に取り組みます。自尊感情や自信、意欲・やる気などにより高まります。自律性にも関係する人としての本質的な資質で、社会人基礎力の他の能力要素の基盤です。

■ 〈主体性〉を高める考え方・行動

まずは職場に適応してチームの一員となるために努力をしましょう。“自分にできそうな小さな行動目標”（たとえば「自分からあいさつをする」「毎日定刻までに出勤する（遅刻しない）」など）を立て、実行します。小さな成功体験が喜びと自信につながります。入職間もない時期は、周囲の状況がよくわからず「自分がしたい（すべきだと思う）こと」と「自分の果たすべき役割」「周囲から求められていること」がズレていることがあります。ズレているとわかったら修正し、するべきこと（物事）を確認してみましょう。

*意識してみよう

- ① 自ら決断・行動する機会を設ける
- ② 行動する
- ③ 自分の立場（役割）を客観的に理解する（ズレがあれば修正）

～自信をもつために自分にできそうな小さな行動目標を考えてみましょう。施設で決められたものがあればそれを書いてかまいません。（参考例：「自分からあいさつをする」「毎日定刻前に出勤する（遅刻しない）」「仕事の準備・かたづけを進んでする」）

● 私の行動目標

*¹ 入職間もない時期は、「指示された」業務を正確に行うことも重要です。